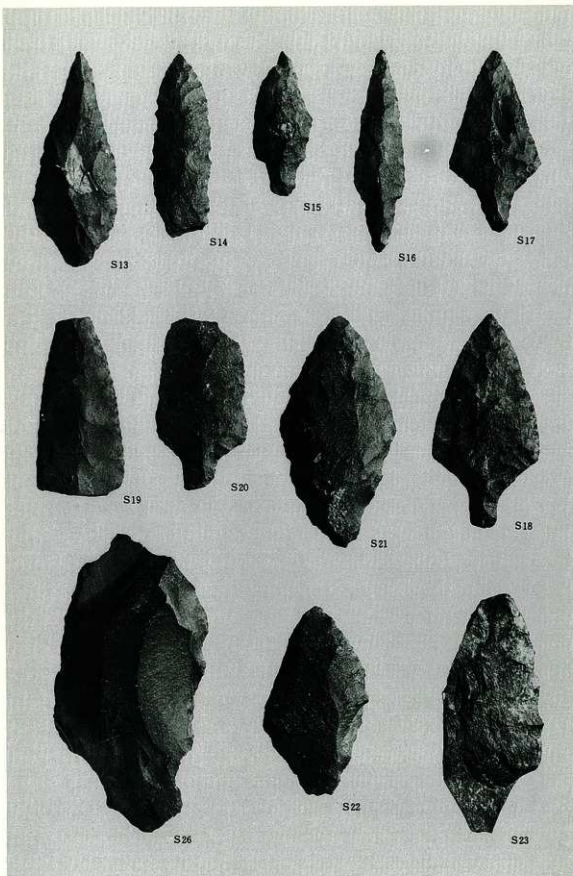
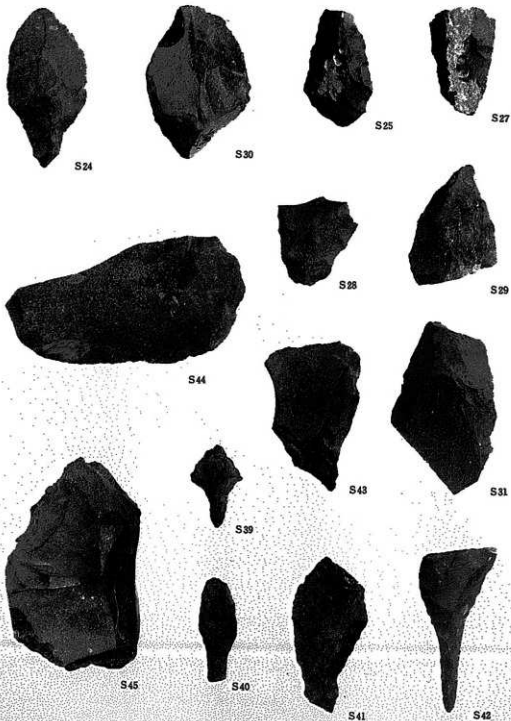


B、Cトレンチ出土の石器



Dトレンチ出土の石器(1)



Dトレンチ出土の石器(2)



S37



S34



S36



S38



S33



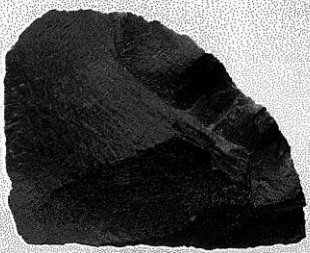
S35



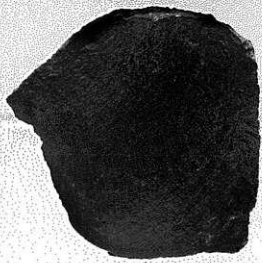
S32



S46+S47

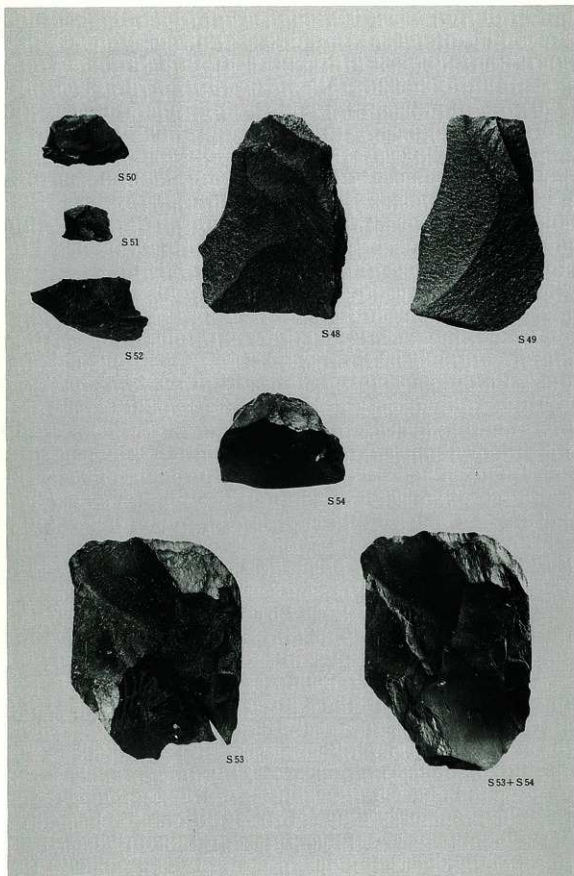


S47

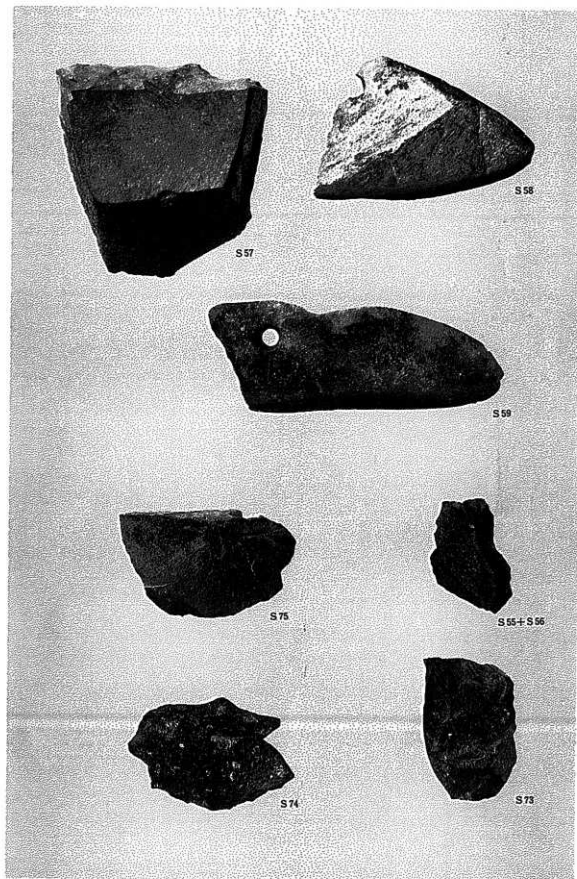


S46

Dトレンチ出土の石器(4)



Dトレンチ出土の石器(5)



Dトレンチ出土の石器(6): S73~S75はサヌカイト集積ピット2出土



S64



S65



S66



S68



S67



S70



S69



S71



S72

第3節 久宝寺遺跡南地区第1調査区出土土器胎土の砂礫観察

八尾市立刑部小学校教諭 奥田 尚

1. はじめに

個体確認ができる完形品150試料の表面に見られる砂礫の観察をした。裸眼で全体を観察し、観察良好な部分を倍率30倍の実体鏡で観察した。観察事項は砂礫種、粒径、粒形、量の4項目である。岩石種については、更に詳しく、造岩鉱物、構成鉱物について観察した。観察された岩石種は花崗岩、閃緑岩、流紋岩、砂岩、泥岩、チャート、結晶片岩、火山ガラスで、鉱物種は石英、長石、黒雲母、白雲母、角閃石、輝石である。花崗岩としたものは、石英・長石、石英・黒雲母、長石・黒雲母がかみ合った岩片であり、花崗閃緑岩や石英閃緑岩の可能性もあるが、便宜上、花崗岩とした。また、閃緑岩としたものは、石英・角閃石、長石・角閃石がかみ合った岩片であり、角閃石花崗岩の可能性もあるが、便宜上、閃緑岩とした。粒径は裸眼の場合、粒径が2mm以上を粗粒、2mm未満0.5mm以上を中粒、0.5mm未満を細粒とした。実体鏡下での場合、粒径が1mm以上を粗粒、1mm未満0.5mm以上を中粒、0.5mm未満0.2mm以上を細粒、0.2mm未満を微粒とした。粒形は角、亜角、亜円、円の4段階に区分した。量は個数的に、非常に多い、多い、中、僅か、ごく僅かの5段階に区分した。

2. 砂礫種について

砂礫種について述べる。

花崗岩：色は灰白色、灰色で、粒形が角礫、亜角礫である。造岩鉱物のかみ合わせは、石英・長石、石英・黒雲母、長石・黒雲母である。

閃緑岩：色は灰白色、灰色、暗灰色で、粒径が角礫、亜角礫である。造岩鉱物のかみ合わせは、長石・角閃石、石英・長石・角閃石、石英・角閃石である。

流紋岩：色は黒色、白色、淡赤褐色で、粒形が角礫、亜角礫である。石基は玻璃質で、細粒の石英が点在する場合がある。

砂岩：色は灰色、褐色で、粒形が亜角礫、亜円礫である。砂粒は細粒である。

泥岩：色は、灰色で、粒形が亜円礫である。

チャート：色は白色、灰白色、灰色、暗灰色、黒色、赤色、赤褐色である。粒形は角礫、亜角礫、亜円礫である。

結晶片岩：色は白色、灰色、黒色で粒形は角礫、亜角礫、亜円礫である。石英片岩、絹雲母片岩である。

火山ガラス：色は黒色、無色で、透明である。粒形は貝殻状、半筒状、フジツボ状である。

石英：無色透明、白色透明で、粒形が角礫、亜角礫である。六角阿維形を示す場合がある。

長石：白色、白色透明で、粒形が角礫である。

黒雲母：色は黒色、金色で、金属光沢がある。板状、粒状である。

白雲母：無色透明で、光沢がある。板状である。

角閃石：色は黒色で、粒形が粒状、柱状の角礫である。結晶面には黒色の金属光沢がある。柱状の場合、自形であるものがある。

3. 類型区分

土器胎土に含まれる砂礫構成をもとに、類型区分をした。区分基準について述べる。

第1表 類型区分基準表

類型	砂礫類	花崗岩	閃緑岩	流紋岩	砂岩	泥岩	チャート	結晶片岩	火山ガラス	石英	長石	黒雲母	白雲母	角閃石	輝石
I								○		○	○	○	○	○	
II a		△	△							○	○	△		○	
II b										○	○			○	
III a		△	△	△					△	○	○	△		○	
III b		△	△				○			○	○	△		△	
III c		△	△	△						○	○	△			
IV a					△	△	○			○	○			△	
IV b		△	△		△		○			○	○	△		△	
V a		△	△						△	○	○	△		○	
V b		△	△				△		△	○	○	△		○	
VI								○	○	○	○	△		○	○
VII		△	△	△			○		△	○	○	△	△	○	
VIII				○	△					○		△		△	

○印は含まれる。 △印は含まれることもある。 空白は含まれない。

I 類型：花崗岩類起源と推定される砂礫、碎屑岩類、結晶片岩が含まれる。

II 類型：花崗岩類起源と推定される砂礫のみからなる。角閃石が裸眼でも認められ、量が多い。

石英が裸眼で認められない。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ II a 類型

石英が裸眼で認められる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ II b 類型

III 類型：花崗岩類起源と推定される砂礫を主とし、碎屑岩類がごく僅かに認められる場合がある。角閃石は細粒で少ないか、認められない場合がある。

角閃石がごく僅かに含まれる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ III a 類型

チャート、砂岩等の碎屑岩類がごく僅かに含まれる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ III b 類型

角閃石が認められない。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ III c 類型

IV 類型：花崗岩類起源の砂礫、碎屑岩類が認められる。角閃石は少なく、チャートが比較的多い。

チャートが比較的多く含まれる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IV a 類型

チャートが僅かに含まれる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ IV b 類型

V 類型：花崗岩類起源の砂礫を主とし、碎屑岩類が認められる。石英と角閃石に自形が認めら

れる。

碎屑岩類が認められない。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ V a 類型

チャート等の碎屑岩類が認められる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ V b 類型

VI 類型：結晶片岩が認められ、角閃石が自形で、輝石が認められる。

VII 類型：花崗岩類起源の砂礫、碎屑岩類が認められる。チャートが比較的多く、角閃石が中～僅かである。

VIII 類型：花崗岩類起源の砂礫を主とし、玻璃質流紋岩が比較的多い。

IX 類型：I 類型～VIII 類型のいずれにも属さない砂礫構成である。

不 能：胎土中に認められる砂礫量が少なく、類型区分をするには量的に少ないものである。

4. 各類型の砂礫構成

I 類型～VIII 類型の砂礫構成について述べる。

I 類型：構成砂礫種は結晶片岩、石英、長石、白雲母、黒雲母、角閃石である。結晶片岩は黒色、白色で、亜角礫、亜円礫である。石英片岩、絹雲母片岩である。粒径は 1 mm～10 mm で、量が多い。粗粒のものが多く、細粒は僅かである。石英は白色透明、亜角礫である。粒径は 0.5 mm～1 mm で、量が多い。長石は白色、亜角礫である。粒径は 0.2 mm～1 mm で、量が多い。白雲母は無色透明、板状である。粒径は 0.2 mm～0.5 mm で、量が僅かである。黒雲母は金色、板状である。粒径は 0.5 mm～1 mm で、量が僅かである。角閃石は黒色、亜円礫である。粒径は 0.2 mm 以下で、量が僅かである。

II 類型：構成砂礫種は花崗岩、閃緑岩、石英、長石、黒雲母、角閃石である。石英、長石、角閃石は全ての試料に認められる。花崗岩は灰白色、角礫である。粒径は 1 mm～5 mm で、量がごく僅か～僅かである。閃緑岩は灰白色、角礫である。粒径は 0.5 mm～1 mm で、量がごく僅かである。造岩鉱物のかみ合わせは長石・角閃石である。石英は無色透明、角礫である。粒径は 0.2 mm～1 mm で、量がごく僅か～僅かである。長石は白色で、角礫、亜角礫である。粒径は 0.2 mm～1 mm で、量がごく僅か～僅かである。黒雲母は黒色、金色で、板状である。粒径は 1 mm 以下で、量がごく僅か～多いである。角閃石は黒色、粒状である。粒径は 0.2 mm～2 mm で量が非常に多い。II a 類型と II b 類型は石英が裸眼で認められるか、認められないかによって区分したのみである。

III 類型：構成砂礫種は花崗岩、閃緑岩、流紋岩、砂岩、チャート、火山ガラス、石英、長石、黒雲母、角閃石である。石英、長石は全ての試料に含まれる。花崗岩は灰白色、灰色で、角礫である。粒径は 1 mm～3 mm で、量がごく僅か～僅かである。造岩鉱物のかみ合わせは石英・長石、石英・黒雲母である。閃緑岩は暗灰色、角礫である。粒径は 0.5 mm～2.5 mm で、量はごく僅か～僅かである。造岩鉱物のかみ合わせは石英・長石・角閃石、石英・角閃石である。流紋岩は白色、淡赤褐色で、亜角礫である。粒径は 1 mm で、量がごく僅かである。石基は玻璃質で、石英の斑晶が点在する。砂岩は灰色、亜角礫である。粒径は 1 mm で、量がごくごく僅かである。砂岩の砂粒は

資料 番号	岩					石					砂					種類	他仕様	用途
	花崗岩 30倍	閃綠岩 30倍	閃綠岩 30倍	流紋岩 30倍	チャート 30倍	結晶片岩 30倍	火山ガラス 30倍	石英 30倍	長石 30倍	雲母 30倍	角閃石 30倍	輝石 30倍	珪石 30倍	珪石 30倍	珪石 30倍			
36	△																	
37					○ 1													
38					×													
39	△ 1																	
40	×																	
41	×				×													
42	△ 1				△													
43	×				×													
44					×													
45																		
46																		
47																		
48																		
49																		
50																		
51	△ 1																	
52	△ 1																	
53	△ 1				△ 1													
54																		
55																		
56	△ 1																	
57	△ 1																	
58	△ 1																	
59	△ 1																	
60	△ 1																	
61	×																	
62	△ 1																	
63																		
64																		
65	×																	
66	×																	
67	×																	
68	×																	
69	×																	
70	×																	
71	×																	

細粒である。チャートは赤褐色、灰白色、灰色、暗灰色、黒色である。亜円礫が多く、角礫、亜角礫は僅かである。粒径は0.5mm～5mmで、量ごく僅か～僅かである。火山ガラスは黒色透明、無色透明で、半筒状、フジツボ状、貝殻状である。粒径は0.2mm～1mmで、量ごく僅か～僅かである。石英は灰白色透明、無色透明で、角礫が多く、亜角礫が僅かである。粒径は0.2mm～2.5mmで、量が僅か～多いである。長石は白色で、角礫が多く、亜角礫は僅かである。粒径は0.5mm～3mmで、量ごく僅か～多いである。黒雲母は黒色、金色で、板状である。粒径は2mm以下で、量はごく僅か～多いである。角閃石は黒色で、粒状、柱状である。粒径は0.2mm～1mmで、量ごく僅か～僅かである。当遺跡付近の砂礫にはチャートや角閃石がごく僅か～僅かに含まれる場合もあることから、角閃石が含まれ、チャートが含まれない場合をⅢa類型、チャートが含まれる場合をⅢb類型、角閃石が含まれない場合をⅢc類型とした。

Ⅳ類型：構成砂礫種は花崗岩、砂岩、泥岩、チャート、石英、長石、黒雲母、角閃石である。チャート、石英、長石は全ての試料に含まれる。花崗岩は灰白色、灰色で、角礫、亜角礫、亜円礫である。粒径は1mm～5mmで、僅かである。砂岩は褐色で、亜円礫である。粒径は0.2mm～0.5mmで、量が僅かである。泥岩は灰色で、亜円礫である。粒径は1mm～1.5mmで、量中である。チャートは白色、灰色、暗灰色、赤褐色で、亜角礫である。粒径は0.5mm～4mmで、量ごく僅か～僅か、多いである。石英は無色透明で、角礫、亜角礫である。粒径は0.5mm～5mmで、量中である。長石は白色で、角礫、亜角礫である。粒径は0.5mm～2mmで、量が僅かか多いである。黒雲母は黒色、金色で、板状である。粒径は0.5mm～2mmで、量ごく僅かである。角閃石は黒色で、角礫、亜角礫である。粒径は0.2mm～0.5mmで、量ごく僅か～僅かである。チャートが多く含まれる場合をⅣa類型に、チャートが比較的少ない場合をⅣb類型にした。Ⅳb類型はⅢb類型に類似するが、チャートの量が比較的多い。

Ⅴ類型：構成砂礫種は花崗岩、閃緑岩、流紋岩、チャート、火山ガラス、石英、長石、黒雲母、角閃石である。石英、長石、角閃石は全ての試料に認められる。花崗岩は灰白色で、角礫、亜角礫である。粒径は0.5mm～2mmで、量ごく僅か～僅かである。流紋岩のかみ合わせは石英・長石である。閃緑岩は暗灰色で、角礫である。粒径は0.5mm～1mmで、量ごく僅かである。流紋岩のかみ合わせは石英・角閃石、長石・角閃石である。角閃石は柱状で自形の場合がある。流紋岩は黒色で、亜角礫である。粒径は0.5mm～1mmで、量が僅かである。チャートは暗灰色、暗赤褐色で、角礫、亜角礫である。粒径は1mm～2mmで、稀に6mmに及ぶ。量はごく僅か～僅かである。火山ガラスは黒色、無色透明で、貝殻状、フジツボ状である。粒径は0.2mm～1mmで、量ごく僅か～僅かである。石英は無色透明、角礫である。粒径は0.2mm～2mmで、量が僅か～多いである。複六角錐形の高型石英が認められる。長石は白色で、角礫、亜角礫である。粒径は0.2mm～1mmで、量ごく僅か～多いである。黒雲母は金色、黒色で、板状である。粒径は1mm以下で、量ごく僅か～多いである。角閃石は黒色で、粒状、柱状の角礫、亜角礫である。粒径は0.2mm～1mmで、量ごく僅か～多いである。角閃石には柱状で自形のものも僅かではある

資料 番号	花崗岩			閃緑岩			斑銅岩			流紋岩			チャート			結晶片岩			カウガラス			石			英			底			石			露			母			角			層			梯土塊	部組	類型																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限	限				限	限																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
S	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000

が認められる。砕屑岩類が認められないものをV a 類型、砕屑岩類が認められるものをV b 類型とした。

VI 類型：構成砂礫種は結晶片岩、火山ガラス、石英、長石、黒雲母、角閃石、輝石である。結晶片岩は白色、灰色で、角礫、亜角礫である。粒径は0.5mm～4mmで、量が僅かである。石英片岩、絹雲母片岩である。火山ガラスは無色透明、黒色透明で、貝殻状である。粒径は0.5mm～1.5mmで、量が多い。石英は淡緑色透明、無色透明で、亜角礫である。粒径は0.2mm～1.5mmで、量が中である。長石は白色、亜角礫である。粒径は2mmで、量が僅かである。黒雲母は金色、板状である。粒径は0.2mm～0.5mmで、量がごく僅かである。角閃石は黒色、柱状の角礫、亜角礫である。粒径は0.2mm～1mmで、量が中である。結晶面が認められる場合が多い。輝石は黒色、亜角礫である。粒径は0.2mm～0.5mmで、量がごく僅かである。

VII 類型：構成砂礫種は花崗岩、閃緑岩、流紋岩、チャート、火山ガラス、石英、長石、黒雲母、白雲母、角閃石である。チャート、石英、長石、角閃石は全ての試料に認められる。花崗岩は灰色、亜角礫である。粒径は1mm～2mmで、量がごく僅か～僅かである。造岩鉱物のかみ合わせは石英・長石である。閃緑岩は灰色で、亜角礫である。粒径は0.5mm～1mmで、量が僅かである。流紋岩は黒色で、角礫である。粒径は1mm～1.5mmで、量がごく僅かである。石基は玻璃質で、石英の斑晶が点在する。チャートは灰色、黒色、赤色、赤褐色で、亜円礫である。粒径は0.5mm～2mmで、量が僅か～多いである。火山ガラスは灰色、貝殻状である。粒径は0.5mm～1mmで、量が僅かである。石英は無色透明で、角礫、亜角礫である。粒径は0.2mm～3mmで、量が中～多いである。長石は白色、角礫である。粒径は0.2mm～2mmで、量が僅か～多いである。黒雲母は黒色、金色で、板状である。粒径は0.2mm～2mmで、量がごく僅か～僅かである。白雲母は無色透明、板状である。粒径は1mm以下で、量が中である。1試料のみに認められる。角閃石は黒色で亜角礫である。粒径は0.2mm～1mmで、量が僅か～中である。

VIII 類型：構成砂礫種は花崗岩、流紋岩、砂岩、石英、長石、黒雲母、角閃石である。花崗岩は灰白色、角礫である。粒径は0.5mm～2mmで、量がごく僅か～僅かである。流紋岩は灰白色、赤褐色で、角礫、亜角礫である。粒径は0.5mm～3mmで、量が僅か～中である。石基は玻璃質である。石英は無色透明で、角礫である。粒径は0.5mm～1.5mmで、量が中～多いである。長石は白色、角礫である。粒径は0.2mm～1.5mmで、量はごく僅か～僅かである。角閃石は黒色で、角礫である。粒径は0.2mm～0.5mmで、量がごく僅か～僅かである。角閃石には結晶面が認められる場合がある。

IX 類型：I 類型からVIII 類型のいずれにも属さない試料をあつめたものである。

5. 砂礫の採取地

土器出土地により近い距離で、土器胎土中の砂礫と同じ砂礫構成の砂礫が得られる場所を砂礫の採取地とする。

土器出土地点の久宝寺付近の砂礫構成は、花崗岩起源と推定される砂礫を主とし、砕屑岩類が

資料 番号	岩										石								鉱					地塊		地層				
	花崗岩 30倍	閃輝綠岩 30倍	流紋岩 30倍	チャート 30倍	粘板岩 30倍	火山ガラス 30倍	石英 30倍	長石 30倍	雲母 30倍	角閃石 30倍	輝石 30倍	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無		無	無	無	無
100																														
101																														
111																														
112																														
113																														
114																														
115																														
117																														
118																														
119																														
120																														
121																														
122																														
123																														
124																														
125																														
126																														
127																														
129																														
130																														
131																														
132																														
133																														
134																														
135																														
136																														
137																														
138																														
139																														
140																														
141																														
142																														

ごく僅かに含まれる。砕屑岩は主としてチャートである。チャートの量は、八尾市中田、萱振、山賀付近では少なく、試料によっては認められない場合がある。同市八尾南、大阪市長原付近になれば含まれる量が比較的多くなり、堺市付近になれば、更に多くなる。角閃石は細粒でごく僅か—僅かに含まれる場合、認められない場合がある。粒径は細粒である。

当遺跡付近の砂礫構成と同じ砂礫構成の土器は、Ⅲ類型に属するものである。Ⅳa 類型の土器はチャートが多く、砂岩、泥岩等が含まれ、花崗岩起源の砂礫が比較的少ないことから、堺市付近が、Ⅳb 類型の土器はチャートが比較的多く含まれることから、八尾南から長原にかけての地域が砂礫の採取地と推定される。

Ⅱ類型の土器は、他形の角閃石が多く、石英が少なく、砕屑岩類が含まれないことから、塩基性の深成岩分布域の砂礫であると推定される。生駒山地には生駒山を中心に斑礫岩が広く分布する。構成砂礫粒には鋭い角があり、粒度が一定しないことから、岩石を粉碎した粒である可能性がある。石英が細粒で少ないことなどを考慮すれば、斑礫岩を粉碎した砂礫を利用したと推定される。斑礫岩中には石英が含まれることがないため、裸眼で石英が認められる砂礫構成は、花崗岩等の石英が混入する条件にあった砂礫と推定される。前者の砂礫構成を示す土器がⅡa 類型に属する土器で、後者がⅡb 類型に属する土器である。

Ⅴ類型に属する土器には、石英と角閃石に僅かではあるが自形が認められ、閃緑岩に柱状自形の角閃石が含まれる場合がある。このような砂礫構成の砂礫は岡山市足守川の砂礫に酷似する。足守川の中流域では砕屑岩類が認められないが、下流の上東遺跡出土の土器中には砕屑岩類が認められるものがある。Ⅴ類型の土器は足守川の下流域の砂礫を採取して制作された土器であると推定される。

Ⅵ類型に属する土器には、結晶片岩、自形の角閃石、輝石が認められることから、結晶片岩、安山岩等が広く分布する地域である。このような条件を満たす地域としては、山陰地方の鳥取県東部や鳥根県のいずれかが推定される。距離的には鳥取県に近い。

Ⅷ類型に属する土器は花崗岩類起源と推定される砂礫を主とし、流紋岩類が比較的多く含まれる。このような砂礫構成の砂礫は、備前市から加古川市にかけての播磨から備前東部付近の砂礫構成に類似する。

Ⅷ類型・Ⅸ類型に属する砂礫構成の砂礫は明らかに土器出土付近の砂礫構成と異なることから、当付近以外で採取された砂礫であると推定される。

6. おわりに

土器胎土中の砂礫の採取地と制作地が同じであるとするならば、Ⅰ類型の土器は紀ノ川流域和歌山市付近から、Ⅱ類型の土器は生駒山地の西麓から、Ⅳa 類型の土器は堺市付近から、Ⅳb 類型の土器は長原から八尾南にかけての付近から、Ⅴ類型の土器は吉備、足守川の下流域から、Ⅵ類型の土器は鳥取県東部付近から、Ⅷ類型の土器は播磨西部から備前東部にかけての付近から運

材料 番号	岩										物										他土塊	種類					
	花崗岩	閃綠岩	斑岩	流紋岩	チャート	結晶片岩	火山砕屑岩	石英	長石	雲母	角閃石	輝石	花崗岩	閃綠岩	斑岩	流紋岩	チャート	結晶片岩	火山砕屑岩	石英			長石	雲母	角閃石	輝石	
143	1-1-1																								無	凝	
144	1-1-1																									無	凝
145																										無	凝
146																										無	凝
147																										無	凝
148																										無	凝
149																										無	凝
150																										無	凝
151																										無	凝
152																										無	凝
153																										無	凝
154																										無	凝
155																										無	凝
156																										無	凝
157																										無	凝
158																										無	凝
159																										無	凝
160																										無	凝
161																										無	凝
162																										無	凝
163																										無	凝
164																										無	凝
165																										無	凝
166																										無	凝
167																										無	凝
168																										無	凝
169																										無	凝
170																										無	凝
171																										無	凝
188																										無	凝

ばれたと言える。また、Ⅵ類型、Ⅸ類型の土器も砂礫の採取地は推定しがたいが、他域から運ばれてきたものである。

類型区分不能な8点を除いた142試料中、実に82試料の土器、約58%の土器が当遺跡に搬入されていることになる。このような搬入量の多い例としては、八尾市中田一丁目の土壇出土土器、同市萱掘遺跡の井戸跡出土の土器があげられる。

器種と類型との関係をみれば、甕と壺には多くの類型が含まれるのに比べ、鉢、高杯、器台等には類型が限定される。また、類型と器種との関係をみれば、Ⅲ類型、Ⅴ類型では全ての器種が含まれている。また、Ⅱ類型では、主として甕に限定される。

Ⅴ類型は22試料含まれ、約15%を占める。在地で全ての器種を作ることは理解しえるが、一地域から搬入した土器が割五分以上にも達し、全ての器種が認められることは、今後、当付近とのつながりを考える必要があろう。(1985年6月)

第3表 類型と器種

類型	器種	甕	壺	鉢	高杯	器台	小丸	合計
I			1					1
II a		8	1					9
II b		2						2
III a		1 1	5	3	3	1	5	2 8
III b		9	3	7	1	3	6	2 9
III c		2					1	3
IV a		1						1
IV b		3						3
V a		1	3	1	2	2	5	1 4
V b		5		1	1		1	8
VI								1
VII		3					2	8
VIII		2	1					3
IX		1 1	4	8	2	3	4	3 2
不能				1	3	2	2	8
合計		5 8	2 2	2 1	1 2	1 1	2 6	1 5 0

第4節 久宝寺遺跡南地区第1調査区出土土器の偏光顕微鏡による砂礫観察

八尾市立利部小学校教諭 奥田 尚

土器を薄片化した試料50点の観察を行った。薄片化した試料の器種と時期については表に示す通りである。

薄片の大きさは24mm×32mmである。この面積で、土器全体の胎土中の砂礫構成を代表できるかは検討を得ていない。試料は薄片化しているため、岩石を観察する場合と同じように偏光顕微鏡を用いて観察した。観察できた岩石片は、花崗岩、斑岩、砂岩、泥岩、チャート、片岩、火山ガラス等で、鉱物片は、石英、カリ長石、斜長石、黒雲母、角閃石、輝石、橄欖石等である。石英については、片麻岩や圧砕岩等によく見られる波動消光についても注意した。カリ長石ではパーサイト構造や累帯構造に注意した。試料の一部分をオープンニコル時とクロスニコル時の2枚に分けて写真を撮った。2つの写真を比べれば、だいたいの岩石種や鉱物種の予測はつけられると思われる。しかし、偏光顕微鏡による観察は、オープンニコル時の多色性や、クロスニコル時の消光角や干渉色などをもとに鉱物を区別していくため、写真による総合では判断できない。

試料をオープンニコル・クロスニコル下で撮影した写真と、そこに見られる岩石片・鉱物片のスケッチ及び簡単な説明を図版に示す。

表に示すように、比較的大きな砂礫粒の種類を量的にみれば、石英を主とする場合、斜長石や角閃石を主とする場合に区分ができる。角閃石が比較的多く含まれる試料には斜長石が多く含まれ、斑岩等が含まれる場合が多い。石英には波動消光を示すものが見られる試料もある。波動消光を示す石英は片麻岩や圧砕岩中の石英によく見られる。

観察に使用した試料は、24mm×32mmである。この全体を観察した場合と写真に撮影した約1.8mm×2.5mmの範囲内を比べた場合、写真内で認められない岩石が多い。つまり、写真に撮影した部分で、薄片全体を表していないと言える。推測となるが、使用した薄片が土器中の砂礫構成を代表しているかについては疑わざるを得ない。

観察試料が薄片であるため、短冊状を示す角閃石があっても、自形か他形の判断はできない。石英や長石、輝石についても同じである。また、火山ガラスに於いても形状や色が観察できない。

以上のような難点が多くあげられるが、試料の砂礫構成から次のようなことが推定される。

①角閃石が比較的多く含まれる試料には石英が少ないことから、塩基性の深成岩の分布地域の砂礫である。

②石英が比較的多く含まれる試料には角閃石や輝石等が少ないことから、酸性の岩石分布地域の砂礫が推定される。また、碎屑岩類が比較的多く含まれるものは、新期層の分布域から流出した砂礫であると考えられることから、酸性の岩石が分布し、かつ、新期層が分布する場所が考えられる。

表1 資料の器種と時期、砂礫種 (図版に見られる比較的粗粒砂)

資料 番号	遺物 番号	器種	使用時期	資料 部分	岩 片					鉱 物 片				そ の 他			
					花 崗 岩	斑 岩	泥 岩	チ ャ ー ト	水 晶 岩	片 岩	石 英	カ ラ 長 石	斜 長 石		黒 雲 母	角 閃 石	輝 石
1	Y-	甕	IV様式期	胴部	+			+			○					+	
2	168-6	甕	V様式期	胴部			+				○	+	+				
3	169-15	甕			+						○	+					
4	162-69	高杯	IV様式期	口縁		+	+				+	○			△		
5	167-26	甕	V様式期					+			○	+		+	+	+	焼土塊
6	154-86	台付鉢	IV様式期	口縁	+						○				+		
7	162-62	台付鉢	IV様式期	口縁					+	○	○		△				
8	157-134	甕	IV様式期	胴部							+		○	+	○		
9	163-88	甕	IV様式期	口縁	+			△			○						焼土塊
10	163-76	甕	IV様式期	口縁	△		+	+	+		○	+	+				
11	157-137	高杯	IV様式期	口縁	+						○	+	+				
12	158-12	甕	IV様式期	胴部		+					+		△		○		
13	172-23	甕	V様式期	胴部							+		△	+	○		
14	167-16	甕	V様式期	口縁	+					+	○	+	△				+
15	158-6	大型鉢	IV様式期	口縁	△						○						
16	165-65	甕	IV様式期	口縁									○		△		
17	163-27	無頸甕	IV様式期	口縁	+						○	+	+		+		
18	160-57	甕		胴部		+							+		○		
19	160-48	甕		胴部				+			○	△					
20	167-27	甕				△					△		△		○	+	
21	158-11	甕		胴部				+			○						
22	163-10	甕	IV様式期	胴部							○	△					
23	160-45	甕		胴部							+		△		○	+	
24	158-4	甕	IV様式期	胴部				+	+		○						
25	156-129	甕	IV様式期								○	+	△	+			
26	167-29	甕	IV~V様式期		+			△			○	+					
27	157-147	高杯		脚部	+			+			○	+			+		
28	169-3	甕	IV様式期	胴部				+			○	+	+				
29	Y-243	甕	V様式期				+	+			○						
30	161-23	甕	V様式期	口縁							○						
31	159-22	鉢	IV様式期	口縁		+	+				○		+				
32	151-15		縄文後期		△	+	+		△	△							
33	151-14		縄文後期								+		○		○		
34	161-21	甕	V様式期	口縁	△			+			○		+				
35	156-122	高杯		身部	+						○	+					
36	152-29	甕	IV様式期								○		+		△		
37	Y-126	甕	IV様式期			△					△				○		
38	157-135	甕	IV様式期					+			○	+	+				
39	159-18	甕	IV様式期					+			○		+		+		
40	Y-95	甕	IV様式期								○						
41	171-41	甕	V様式期								○	+					
42	153-43	小型碗									+	+			○		
43	164-31	甕		口縁	+						+	+			○		
44	156-107	高杯	IV様式期	口縁	+	+					△		○		+		
45	152-30	甕	IV様式期	口縁		+					○	+	+		○		
46	168-11	甕	IV様式期	胴部	+			+			○	△	+				
47	166-5	甕	IV様式期		+			+	○		○						
48	171-43	大型鉢	IV様式期					+			○	+	+				
49	171-39	甕	V様式期		+						○		+	+			
50	170-31	高杯	V様式期					△			○						

○ 比較的に多い。 △ 比較的に僅か。 + 含まれている。

図版凡例

〔左ページ〕

試料番号

説明

スケッチ図

〔右ページ〕

オープンニコール写真

クロスニコール写真

図版の記号について

スケッチ略図の左下にある太い線は、1mmの長さを示す。

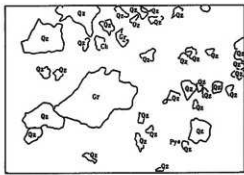
図内に付けてある記号は次のようである。

Gr・・・花崗岩	Ga・・・斑輝岩	Ss・・・砂岩	Ms・・・泥岩
Ch・・・チャート	Sh・・・片岩	Qz・・・石英	Ka・・・カリ長石
Pl・・・斜長石	Bi・・・黒雲母	Am・・・角閃石	Py・・・輝石
Ol・・・橄欖石			

(花崗岩としたものには、便宜上、石英と長石がかみ合った岩片も含めた。)

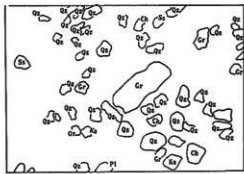
試料番号 1 (B-1, P-1)

石英が多く、チャート、石英と長石がかみ合った岩片、輝石である。



試料番号 2 (B-1, P-2)

石英が多く、砂岩、チャート、斜長石、カリ長石、石英と長石がかみ合った岩片である。石英には波動消光がみられるものがある。



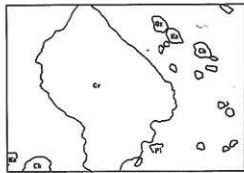
試料番号 3 A (A-1, P-3 A)

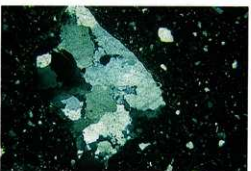
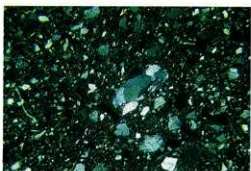
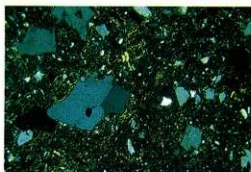
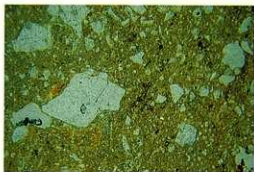
石英を主とし、斜長石、チャート、石英と長石がかみ合った岩片である。石英には波動消光があるものがある。



試料番号 3 B (B-1, P-3 B)

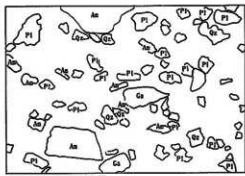
花崗岩の角礫がみられる。他に石英、カリ長石、斜長石、チャートがある。





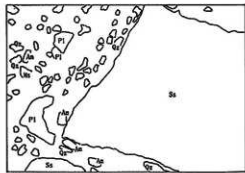
試料番号 4 A (A-1, P-4 A)

斜長石が多く、角閃石、石英、斑銅岩である。
斜長石にはアルバイト双晶を示すものがあり、石
英には波動消光を示すものがある。



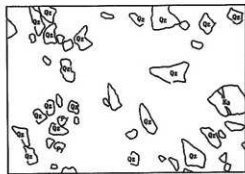
試料番号 4 B (B-1, P-4 B)

角礫の砂岩、円礫の砂岩、泥岩、石英、斜長石、
角閃石である。斜長石にはアルバイト双晶が見ら
れる。



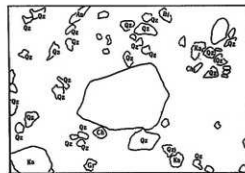
試料番号 5 A (A-1, P-5 A)

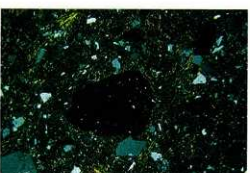
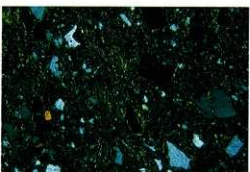
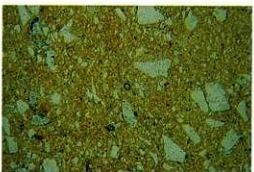
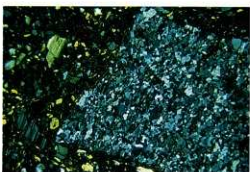
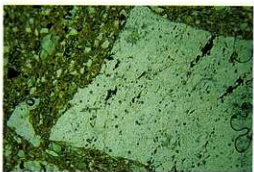
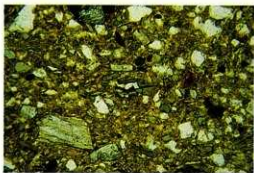
石英を主とし、カリ長石、輝石である。



試料番号 5 B (B-1, P-5 B)

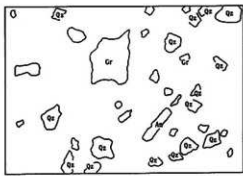
石英が多く、チャート、カリ長石、角閃石、黒
雲母である。黒色の粒は粘土塊である。





試料番号 6 (A-1, P-6)

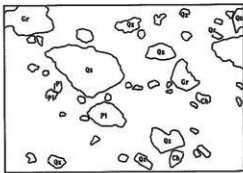
石英を主とし、角閃石、石英と長石がかみ合った岩片である。



試料番号 7 (A-1, P-7)

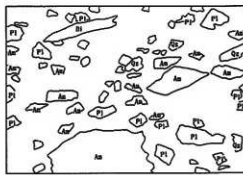
オープンソコル下では貝殻状断面をなす火山ガラスが多く見られる。

石英が多く、花崗岩片、斜長石、チャートである。石英は僅かであるが波動消光を示す。斜長石はアルバイト双晶をなすものがある。



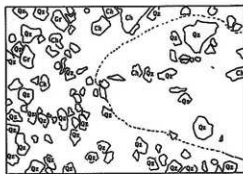
試料番号 8 (A-1, P-8)

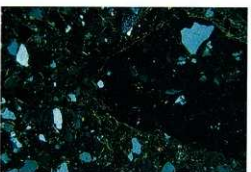
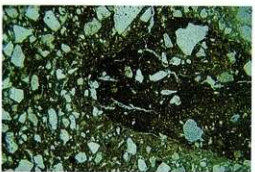
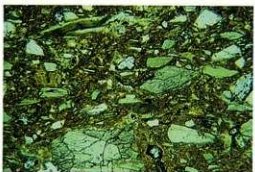
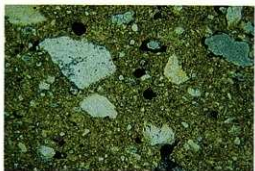
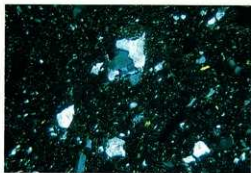
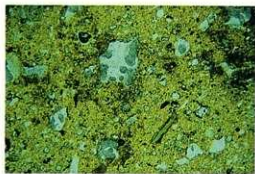
斜長石と角閃石が多く、石英、黒雲母は僅かである。石英には波動消光を示すものがある。斜長石にはアルバイト双晶をなすものが多い。角閃石は角が鋭い角礫が粗粒から細粒のものまである。



試料番号 9 (B-1, P-9)

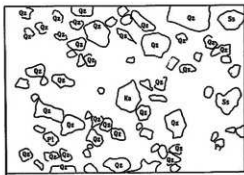
石英が非常に多く、石英・長石からなる岩片、チャートである。右半分の色は黒い部分は焼土塊であり、焼土塊中にも石英が多く、チャートが含まれる。





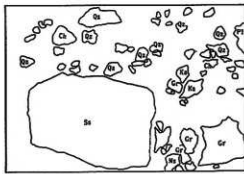
試料番号10A (A-1, P-10A)

石英を主とし、カリ長石、斜長石、輝石、砂岩である。



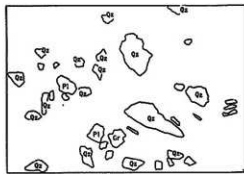
試料番号10B (B-1, P-10B)

亜角礫の砂岩、石英・長石がかみ合った岩片、チャート、泥岩、石英、カリ長石、斜長石である。酸性の岩片・鉱物片が多い。



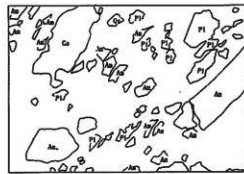
試料番号11 (A-2, P-11)

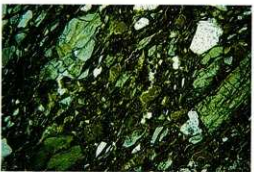
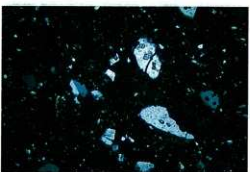
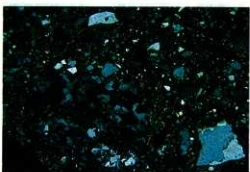
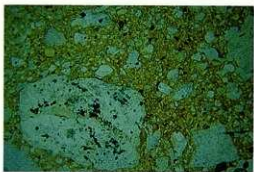
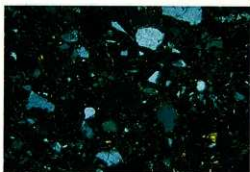
主として石英からなり、斜長石、石英と長石がかみ合った岩片である。斜長石にはアルバイト双晶がある。



試料番号12 (A-2, P-12)

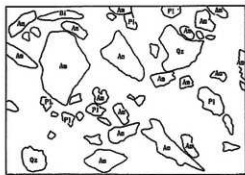
角閃石が多く、斑岩、斜長石、石英である。石英には波動消光が見られる。斜長石はアルバイト双晶がある。





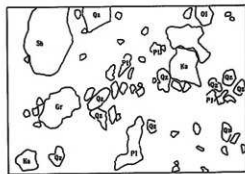
試料番号13 (A-2, P-13)

角閃石が多く、斜長石、石英、黒雲母である。
角閃石には鋭い角がある。斜長石にはアルバイト
双晶が見られる。



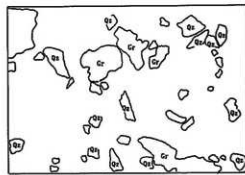
試料番号14 (A-2, P-14)

花崗岩、岩片、石英、カリ長石、斜長石、橄欖
石である。石英には僅かであるが波動消光がある。
橄欖石は干渉色が高く、赤紫色をなす。



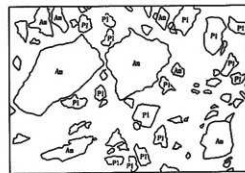
試料番号15 (A-2, P-15)

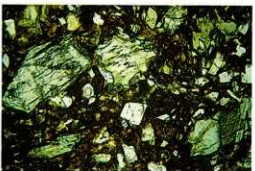
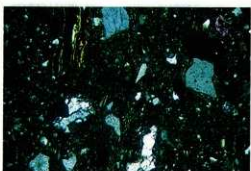
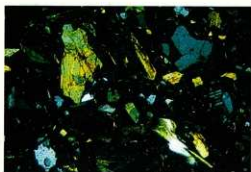
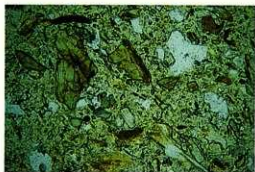
石英が多く、石英と長石がかみ合った岩片であ
る。



試料番号16 (A-2, P-16)

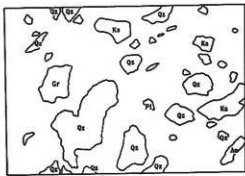
角閃石、斜長石である。斜長石にはアルバイト
双晶を示すものがある。





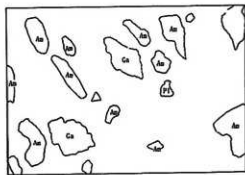
試料番号17 (A-2, P-17)

主として石英からなり、石英・長石がかみ合った岩片、カリ長石、斜長石、角閃石である。石英はほとんど全てが波動消光を示す。



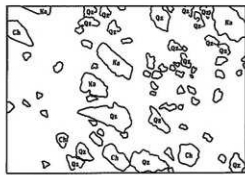
試料番号18 (A-2, P-18)

角閃石が多く、斑綫岩、斜長石である。斑綫岩は角閃石、輝石、斜長石がかみ合っている。斜長石にはアルバイト双晶が見られる。



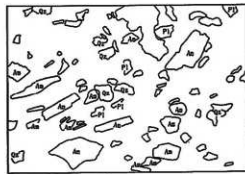
試料番号19 (A-2, P-19)

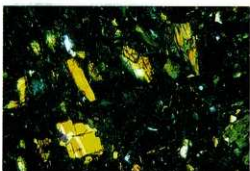
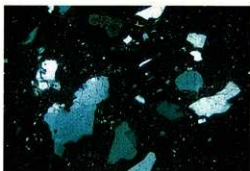
石英が多く、チャート、カリ長石である。石英は円磨度が低いのに比べ、チャートは比較的円磨度が高い。



試料番号20A (A-2, P-20A)

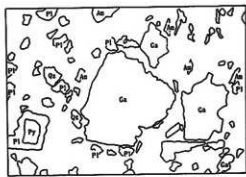
角閃石が多く、石英、斜長石である。角閃石には鋭い角がある。石英には波動消光するものがある。





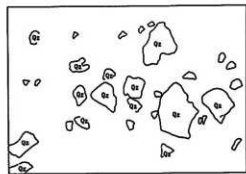
試料番号20B (B-3, P-20B)

斑輝岩、斜長石、角閃石、石英である。全て角礫であり、岩片は粗粒から細粒のものまである。斜長石の中心部が輝石からなるものがある。石英はごく僅かで、塩基性の岩片、鉱物片が多い。



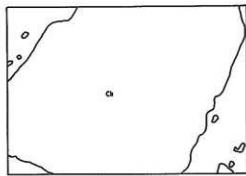
試料番号21A (A-2, P-21A)

石英が多く見られる。



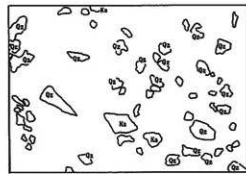
試料番号21B (B-3, P-21B)

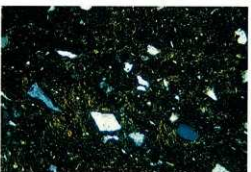
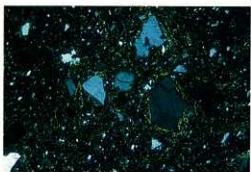
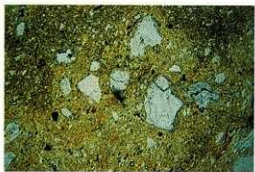
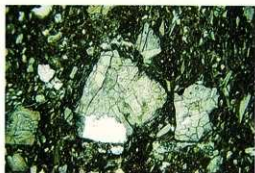
チャートの岩片である。



試料番号22 (A-2, P-22)

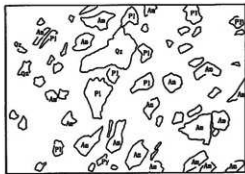
石英が多く、カリ長石である。石英には波動消光するものがある。





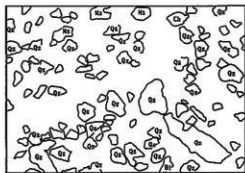
試料番号23 (A-2, P-23)

角閃石が多く、斜長石、石英、輝石である。角閃石には鋭い角がある。斜長石にはアルバイト双晶が見られる。石英は波動消光するものがある。



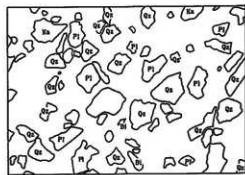
試料番号24 (A-2, P-24)

主として石英からなり、泥岩、チャート、黒雲母が僅かである。石英には波動消光を示すものがある。



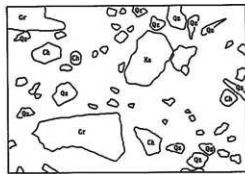
試料番号25 (A-2, P-25)

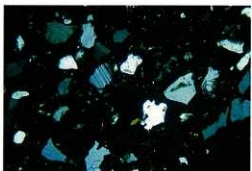
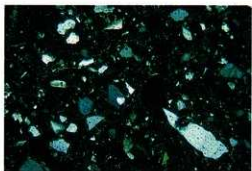
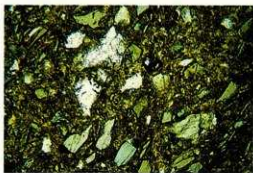
石英を主とし、カリ長石、斜長石、黒雲母である。



試料番号26 (A-2, P-26)

石英が多く、花崗岩、チャート、カリ長石である。花崗岩は、石英、カリ長石、黒雲母がかみ合っている。





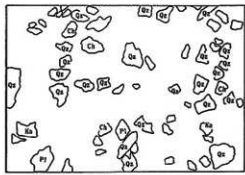
試料番号27 (A-3, P-27)

石英が多く、チャート、角閃石、カリ長石、石英と長石がかみ合った岩片である。



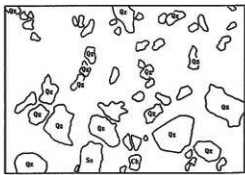
試料番号28 (A-3, P-28)

石英を主とし、カリ長石、斜長石、チャートである。



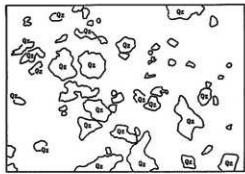
試料番号29 (A-3, P-29)

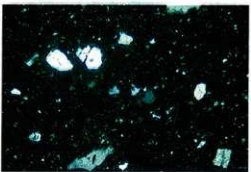
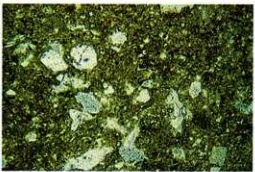
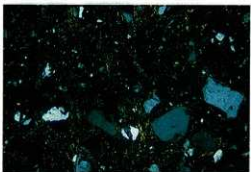
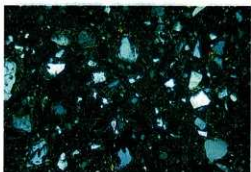
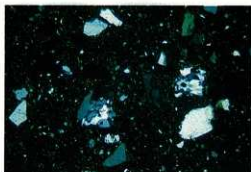
石英が多く、チャート、砂岩である。



試料番号30 (A-3, P-30)

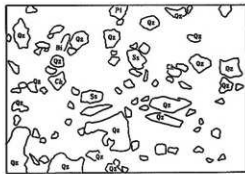
石英が多く見られる。





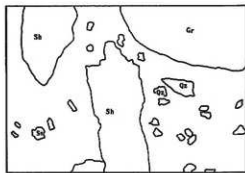
試料番号31 (A-3, P-31)

石英が多く、砂岩、チャート、斜長石、黒雲母である。石英には波動消光がみられる。



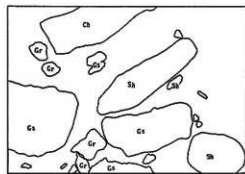
試料番号32A (A-3, P-32A)

円礫の石英とカリ長石がかみ合った岩片、片岩、砂岩、石英である。鉱物が一定の方向にのびている。



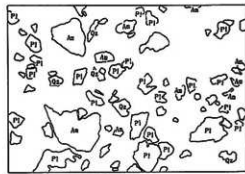
試料番号32B (B-2, P-32B)

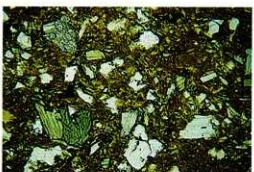
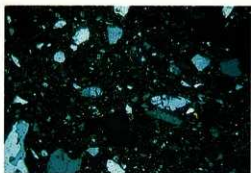
亜円礫の片麻岩、石英と長石がかみ合った岩片、黒雲母花崗岩、円礫の泥質片岩である。片麻岩や黒雲母花崗岩の石英には波動消光するものが多い。



試料番号33 (A-3, P-33)

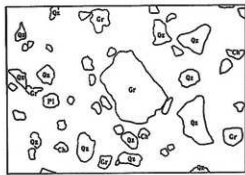
斜長石、角閃石が多く、石英は細かくて僅かである。斜長石はアルバイト双晶をなすものが多い。石英は波動消光を示す。





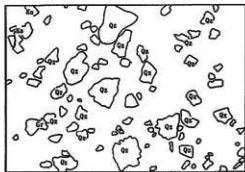
試料番号34 (A-3, P-34)

石英と長石がかみ合った岩片、石英、斜長石、チャートである。石英と長石がかみ合った岩片の石英や石英には波動消光を示すものが多い。



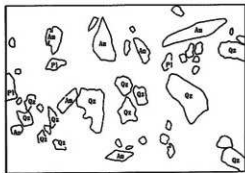
試料番号35 (A-3, P-35)

石英が多く、カリ長石、石英と長石からなる岩片である。石英には波動消光を示すものがある。



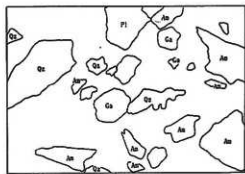
試料番号36 (A-3, P-36)

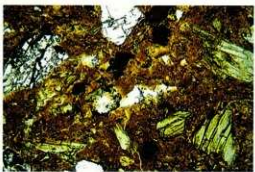
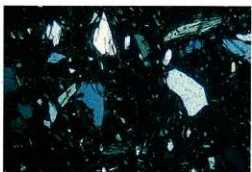
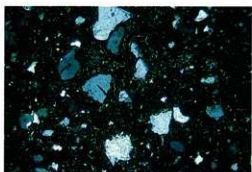
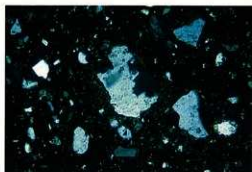
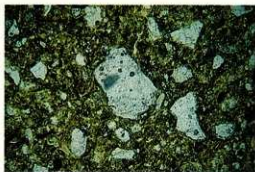
主として角が鋭い石英からなり、斜長石、角閃石からなる。石英には僅かであるが波動消光が認められる。



試料番号37 (A-3, P-37)

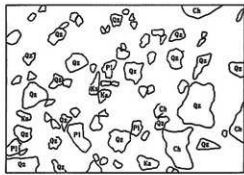
斑輝岩、石英、斜長石、角閃石である。石英は波動消光を示すものが多い。斜長石はアルバイト双晶を示すものがある。右下隅では角閃石の一部に橄欖石がみられる。





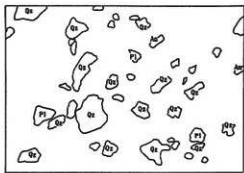
試料番号38 (A-3, P-38)

石英が多く、カリ長石、斜長石、チャートである。



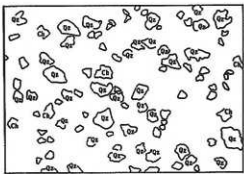
試料番号39 (A-3, P-39)

石英を主とし、斜長石、角閃石である。



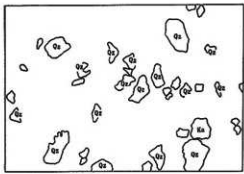
試料番号40 (A-3, P-40)

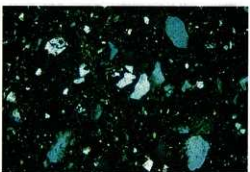
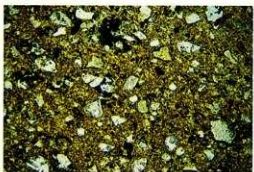
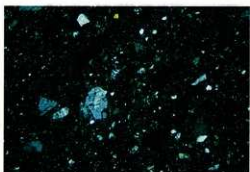
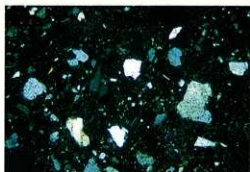
石英を主とし、チャートである。石英には波動消光がみられるものがある。



試料番号41 (A-3, P-41)

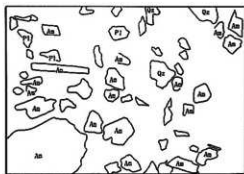
石英を主とし、カリ長石である。石英には波動消光を示すものがある。





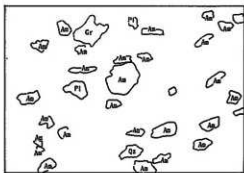
試料番号42 (A-3, P-42)

主として角閃石からなり、斜長石、石英である。角閃石には鋭い角が残っており、柱状を示す場合がごく僅かにある。



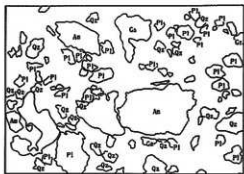
試料番号43 (B-2, P-43)

主として角閃石からなり、斜長石、石英、石英と長石がかみ合った岩片である。斜長石にはアルバイト双晶が見られる。



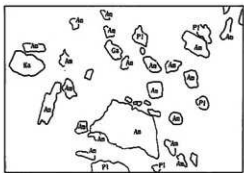
試料番号44 (B-4, P-44)

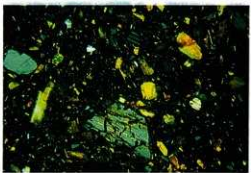
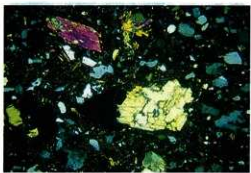
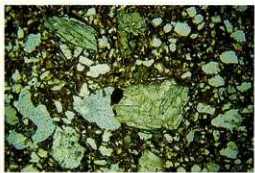
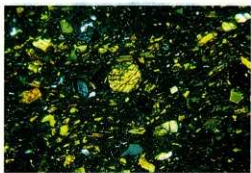
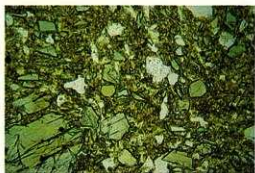
斑岩岩、石英とカリ長石がかみ合った岩片、石英、斜長石である。斜長石は多い。石英には波動消光を示すものがある。斜長石の多くはアルバイト双晶をなす。



試料番号45 (B-4, P-45)

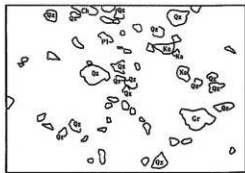
角閃石が多く、斜長石、カリ長石、角閃石と斜長石がかみ合った岩片である。斜長石にはアルバイト双晶が見られる。





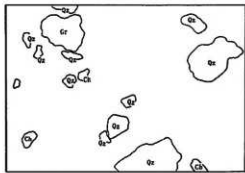
試料番号46 (B-4, P-46)

石英を主とし、カリ長石、斜長石、石英と長石がかみ合った岩片、チャートである。石英には波動消光を示すものがある。



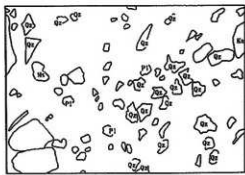
試料番号47 (B-4, P-47)

オープンニコル下では貝殻状の火山ガラスが多く見られる。石英が多く、チャート、石英と長石がかみ合った岩片である。石英には波動消光を示すものがある。



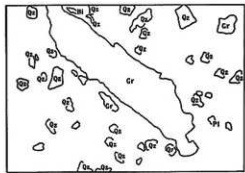
試料番号48 (B-4, P-48)

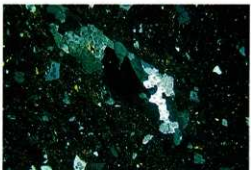
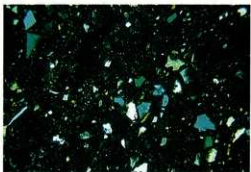
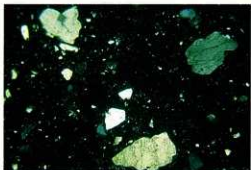
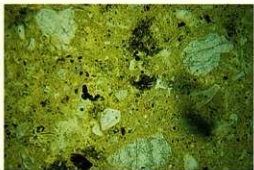
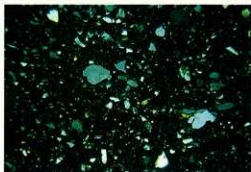
石英が多く、泥岩、カリ長石、斜長石、角閃石が僅かである。石英には波動消光を示すものがある。



試料番号49 (B-4, P-49)

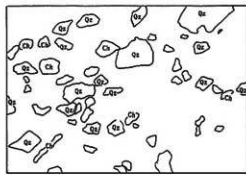
主として角が鋭い石英からなり、僅かに花崗岩が含まれる。干渉色では黄色～茶かっ色をした細かい黒雲母が点在する。ごくごく僅かであるが、アルバイト双晶をなす斜長石がみられる。

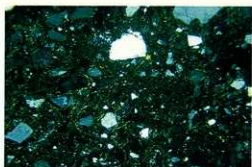
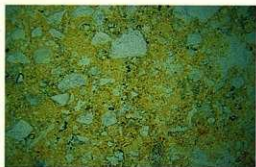




試料番号50 (B-4, P-50)

石英が多く、チャートである。チャートの円磨度は高い。





第5節 久宝寺遺跡出土の青銅製品

(財) 大阪文化財センター 三好孝一

はじめに

久宝寺遺跡南地区第1調査区より二点の青銅製品が出土している。いずれも弥生時代中期の遺構に伴って出土したものであり、C地区の例は方形周溝墓の主体部埋土中より出土したもので、また、D地区出土の青銅製品は、特殊な性格を有すると思われる土坑より出土した例で、大阪湾型銅戈を転用し、欠損部を研磨することにより刃部を作り出すという極めて特異なものである。これまで埋納遺構出土、あるいは採集された資料が多い中で、確実に土器などの遺物とともに共伴し出土した資料として注目に値するものと言えよう。

ここでは、これらの資料の観察を中心にしてのべることにし、あわせてこれまで出土した大阪湾型銅戈と比較した場合の位置づけについてものべることにしたい。

出土青銅製品

青銅製品のうち、C地区のものは1号方形周溝墓2号主体部内の埋土中より出土したものであるが主体部に伴うものかどうかは明らかではない。

厚さ1.5mm弱の扁平な青銅板の一边を鑿状の工具により敲打することにより切断したもので、切断された方向にゆくに従い薄さは増す。他の三辺は成形時のままでおわり、わずかに切断された反対側の長辺の稜部の一部分にのみ研磨あるいは敲打によって生じたと考えられる平滑な線状の面が形成されている。

表裏面には縦位の細い凹凸がみられ、色調は緑灰色を呈しているが、新鮮な破損面には純銅のような光沢が観察される。表面観察のみでは鋳や鉚損じのような鋳造の際に生じる様相は見られないが、鋳造品の鋳

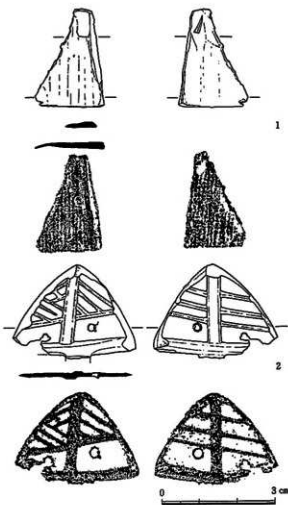


図1 久宝寺遺跡出土青銅製品

バリを切り落とした切片とも考えられる。

もう一点は、D地区の東方橋脚部分拡張トレンチであるD-2地区の土坑-15から出土したものである。二等辺三角形形状を呈する扁平な青銅製品の二側縁を両面より研ぎ出すことにより刃部を形づくるもので、その用途は明確にはし難いが、形態からみて銅鏃になるかもしれない。

研磨が施されない下方の一边がやや傾斜を持つこと、中央部の突線を介して双方に円穴を穿つこと、表と裏面に平行線と複合鋸歯紋を隔出した部分が残存していることから、所謂大阪湾型銅戈の範疇に含まれる青銅製利器を転用して制作されたものと考えられる。

大阪湾型銅戈として考えて見てゆくならば、右側の紐掛穴は鋳造後裏面より穿孔し直され、左側の紐穴は湯まわりが悪く後補の穿孔が行われているのか明確には出来ない。

残存部のみをみた場合鉤掛けなどの補修は認められず鉤放しのままである。茎は四部で幅7mmをはかり、それ以下は欠損し痕跡を止めるにすぎない。下端部は鉤バリを切除したのち面取が施されている。穂の部分には中央部と下端部に突線を隔出し、その両側には複合鋸歯紋が施されている等の特徴を見出すことができる。

また、この大阪湾型銅戈のもう一つの大きな特徴は、表裏とも各々紋様の違う銘范により製作されたもので、表側の紋様は横線で区画した後直ちに複合鋸歯紋を配するのに対し、裏面では通常見られるような平行線を鉤出した後、複合鋸歯紋を配する紋様構成をもつと見られることである。

表面は暗緑灰色を呈する部分と藍色及び鉄分の沈着したと思われる褐色の部分が見られ、また、鬆が何箇所も見られる。

大阪湾型銅戈の類例

ここでは、これまでに出土した大阪湾型銅戈の集成と比較を行ってみたい。現在までに出土した大阪湾型銅戈の類例は今回の出土例を含めて、兵庫県2遺跡8例、大阪府3遺跡3例、和歌山県1遺跡6例の計6遺跡17例である（表-1）。

多くは埋納品を不時発見したもの、あるいは採集品であり出土状況の明確なもの少ない。また、一括埋納された例が2遺跡13例をかぞえる。

これらの例を最も古いとされる和歌山県有田市箕島町上ノ段遺跡出土例をa類、兵庫県神戸市灘区桜ヶ丘遺跡出土例をb類、兵庫県東灘区本山町保久良神社出土例をc類とする従来の型式分類にあてはめてみるならば、上記の出土例の他、大阪府高槻市大塚町大塚遺跡出土例はb類、大阪府東大阪市若江西新町瓜生堂遺跡出土例はc類にあてはめられるとされ、今回の久宝寺遺跡出土例も詳細は不明ながらもc類に該当すると考えられる。

これらのうち、鉤型から取り出した製品の紐掛穴部分に対して円穴を穿つという製作技法からみて久宝寺遺跡出土例は、瓜生堂遺跡出土例に最も近似していると考えられる。

このほかに製品ではないが、大阪府茨木市奈良町東奈良遺跡より大阪湾型銅戈b類の土製銘范が出土している（表2）。

表1 大阪府型銅戈出土地一覧

No	府県名	遺跡名	遺構	伴出品	型式	時期	備考
1	兵庫	桜ヶ丘遺跡	埋納坑	銅鐔14 外縁付鈕式4 扁平鈕式 10	b		
2					b		
3					b		
4					b		
5					b		
6					b		
7					b		
8		保久良神社	包含層	土器・石器	c	中期中葉～後期	
9	大阪	大塚遺跡			b		採集品
10	大阪	瓜生堂遺跡	自然河川		c	中期後半	
11	大阪	久宝寺遺跡	土坑	土器・モミ	c	中期末	
12	和歌山	上ノ段遺跡		付近より銅鐔が 出土	a		
13					a		
14					a		
15					a		
16					a		
17					a		

表2 大阪湾型銅戈鎗范出土地一覧

A	大阪	東奈良遺跡	包含層	銅戈鎗范3 銅鐔鎗范15 外縁付鉏式鎗范3 扁平鉏式鎗范1、 他破片11 勾玉鎗范2	b	中期前半～庄内	
---	----	-------	-----	---	---	---------	--

共伴遺物

以上の類例のうち共伴遺物の存在するものが若干みられる。a類6点がまとまって検出された上ノ段遺跡出土例では、銅戈が出した地点よりやや離れた位置から江戸時代に銅鐔が採集されていることが伝えられている。

桜ヶ丘遺跡出土例b類7点は外縁付鉏式の銅鐔4点、扁平鉏式の銅鐔10点が共伴していることが報告されている。

保久良神社出土例c類は中期中葉から後期の遺物とともに出土している。

瓜生堂遺跡出土例c類は、中期第II遺構面から切り込まれた河川堆積最上層より出土し、同一面より出土した土器ならびに、これらを覆う包含層に対応する土層出土の土器からみて中期後半頃に属する遺物と考えられる。

久宝寺遺跡出土例c類は土坑の埋土中から出土し、共伴した土器より中期末に比定される。この土坑の形状、出土遺物等については本文中に詳しいが、朱彩を施した土器の出土、完形土器の出土、多量の穂首刈りされたままの稲穂が出土していることから、非常に特殊な状況を表していると考えられ、通常一般に土坑とされる遺構とはやや性格を異とし祭祀的様相が強いということが言えよう。

このように見てきた場合、ほとんどの例は後に破損した状態で出土しているか、全形を窺える状態で出土していることに対し、久宝寺遺跡出土例は明らかに転用を受けた二次的製品として出土していることが注意される。すなわち、久宝寺遺跡出土例からみて最も新しい形式とされる大阪湾型銅戈c類は中期末には実戦用ではない青銅器あるいは武器型祭器の機能をすでに失い、銅の素材のみを活かした利器としての転用をうけていることが考えられる。これらの状況より大阪湾型銅戈は中期末には本来の機能を停止し、これらが鋳造された後、一定期間使用された時期もおのずと、中期後半以前に限定できうる可能性が生じてくる。以上のように考えられるならば、これまで単独出土、あるいは共伴遺物が少なく、また、一括埋納という製作されてから埋められる時間的経過が不明瞭であった大阪湾型銅戈が多いなかで、久宝寺遺跡出土例がその本来の目的を持ち製作、使用された時期の終焉を知る上での貴重な資料となることは揺るぎ得ない立場をとることとなる。

まとめにかえて

久宝寺遺跡出土の大阪湾型銅戈に対して、湯まわりが悪い部分に鉤掛けが施されていない部分が存在していることから、鑄造の際の失敗品を他の青銅製利器に転用してしている可能性を完全に払拭することが出来ないが、青銅製品をほとんど本来の原形を止め得ぬまでに再加工し、さらに刃部を形成しているという例を見ない現在、また、鑄造後の紐掛孔部分に瓜生堂遺跡出土例に見られるような補修が施される事実を重視し、完成品として使用された時期が存在したという仮定が許されるならば、以下のことが考えられる。

久宝寺遺跡出土大阪湾型銅戈c類は中期末にはすでにその本来的な機能を失ってしまっているうえに、さらに別の青銅製利器として転用されていることは先にも述べた。このことは当時の人々が、非常に扁平であり、刃部が研ぎ出されていないことから非実戦用具とされる大阪湾型銅戈c類を取り扱う際、この時期すでにその本来的意義が失われ、銅戈に対する意識が大きく変化してしまっている状況を如実に表していると言える。また、このような状況より大阪湾型銅戈c類が鑄造された年代の下限を土坑より共存した土器より中期後半以前に限定できるという結果が導き出される。

以上、非常に簡単ではあるが久宝寺遺跡出土の青銅製品2点についての検討を加えた。この内、従来、時期の把握に対し決定の手段を頼る術が乏しかった大阪湾型銅戈が多い中で、久宝寺遺跡より出土した新例は、時期の限定できる遺構内より出土し、かつ転用を受けているという点でその持つ意義は非常に大きいということを述べてまとめにかえたい。

註

1. 三木文雄「大阪湾型銅戈について」『ミュージアム』223 1969年。
2. 辻路行雄子「高槻市大塚町地先の淀川床遺跡出土銅戈 一戈矛類の用例も併せて一」『大阪文化誌』第三巻第二号 財団法人大阪文化財センター 1976年。
3. 大阪府教育委員会・財団法人大阪文化財センター『瓜生堂』近畿自動車路天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 1980年。
4. 田代克己他「東京良遺跡出土の銅鐃銘について」『考古学雑誌』第61巻第1号 1975年。
5. 梅原末治『銅鐃の研究』 1927年。
6. 『坂ヶ丘銅鐃・銅戈調査報告書(本編)』兵庫県教育委員会 1969年。
7. 樋口清之「摂津保久良神社の研究」『史前学雑誌』第11巻第2・3号 1942年。

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会蔵書 第 05086 号 ()	

久宝寺南
(その1)

近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査概要報告書

昭和62年3月31日発行

編集著作
発行者

財団法人 大阪文化財センター
大阪市城東区蒲生2丁目10番28号

印刷所

株式会社 中島弘文堂印刷所
大阪市東成区深江南2丁目6番8号

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
LIBRARY

1301 EAST 58TH STREET
CHICAGO, ILL. 60637

TEL: 773/495-5111
FAX: 773/495-7500

WWW.CHICAGO.LIBRARY.EDU